

大伴坂上郎女、神を祭る歌一首 并せて

短歌

三七九番

ひさかたの 天の原より 生れ来る 神の命
奥山の さかきの枝に しらか付け 木綿取り付
けて 齋瓮を 齋ひほりすゑ 竹玉を しじに貫
き垂れ 鹿じもの 膝折り伏して たわやめの
おすひ取りかけ かくだにも 我は祈ひなむ 君
に逢はじかも

反歌

三八〇番

木綿たたみ 手に取り持ちて かくだにも 我は
祈ひなむ 君に逢はじかも